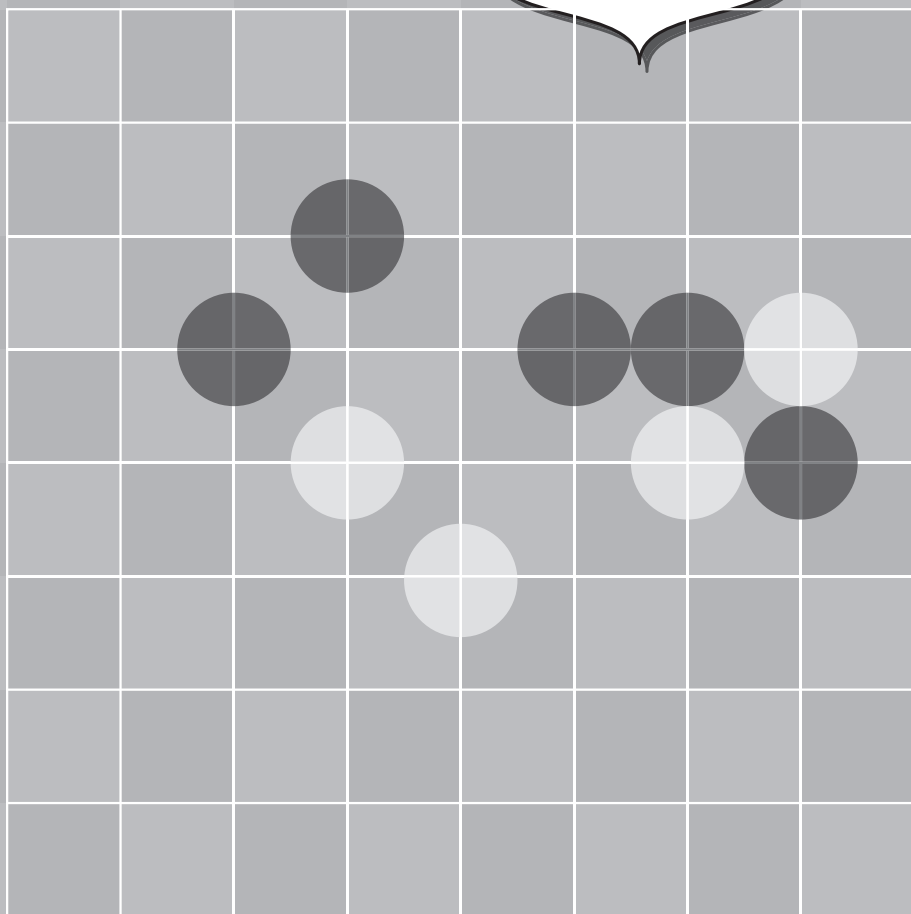


囲碁入門 ネクスト

9路盤



1

日本棋院

第4章

目次

はじめに――2／基本の道具――4／基本のマナー――5／基本ルールの復習――6

第1章

模範碁〈前半／中盤〉――11

第2章

基本ルールをふまえた戦い方――21

ルール2 「縦横の線で隣り合った石は二つの仲間になる」の戦い方――22

ルール3 「線の出していない石は取れる」の戦い方――27

ルール5 「線が出ない所でも、相手の石を取れる場合は置ける」の戦い方――33

第3章

石の強弱と攻防――41

石の強弱を見分ける――42／相手の石を攻める――47／自分の石を守る――53

第4章

石を取る技――61

「3手の読み」を考える――62／「両アタリ」で攻める――63／「オイオトシ」で攻める――69／「シチヨウ」で攻める――75

第5章

総合問題――83

おわりに――94

コラム……囲碁は「打つ」もの――20／囲碁とコンピューター――40／囲碁の別称――60／囲碁を愛した偉人――82

第4章

石を取る技

囲碁に欠かすことのできない
「読み」の考え方と、読みをいかして石を取る
テクニックを紹介します

「3手の読み」を考える

囲碁は二人で対戦するゲームです。交互に打つ番が来て、「1回に置く石は1子」と決まっています。夢中になってくると、ついつい自分に都合のよいことばかり考えがちになります（これを「勝手読み」といいます）、実際はそんなにうまくはいかないものです。

そこで大切なのが、**頭の中で3手先を予想する「3手の読み」**です。

自分と相手が打つ手の可能性（選択肢）を数多く模索することで、多様な変化に対応することができます。この考え方は囲碁に欠かせません。

3手の読みの流れ

- ① 打つ手を考える（1手目・自分）
- ② それに対して相手がどんな手を打つかを考える（2手目・相手）
- ③ 相手の手に対してどんな手を打つかを考える（3手目・自分）

この考え方を繰り返し返して、先へ先へと何手も読み進めていきます。

「自分に都合のよい勝手読み」では意味がありません。**「自分も相手も最善を尽くすことを前提とした読み」**が大切です。

ただし、盤上の変化の可能性は無限にあるため、完璧な読みができる人はいませんし、頭の中で考えることはとても大変です。自分の実力に合わせて少しずつ読めるようになりましょう。「読み」に慣れない場合は、時間のある時に一人で盤に石を置いて考えてみるのも良い方法です。

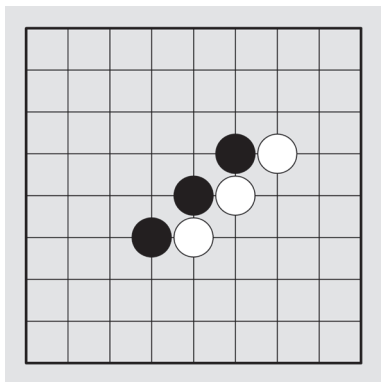
「読み」は囲碁だけでなく、普段の会話などでも有効な考え方でしよう。自分に都合のよい展開のみを考えるのでは、ただの妄想や自己中心的思考となってしまいます。

「両アタリ」で攻める

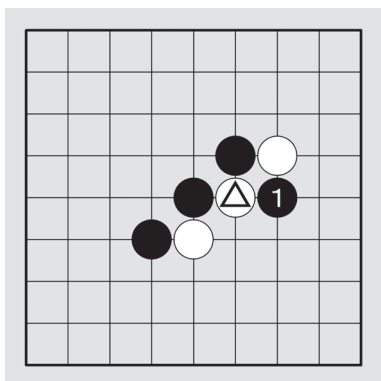
読みを使って相手の石を取るための技をいくつか紹介します。

一つ目は「両アタリ」です。アタリは、石から出ている線が残り1本の状態です。**アタリが2カ所あれば、必ずどちらかの石を取ることができるといって技が両アタリです。**

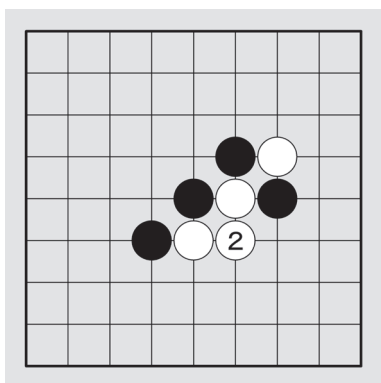
1 図



2 図



3 図



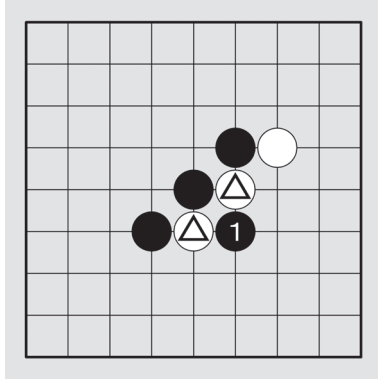
1 図の白石をアタリにしましょう。

2 図の①に置くと、アタリは△の1カ所だけです。「相手（白）がアタリに気がつかなければ自分（黒）が次の手で△を取れる」と考えるのが「勝手読み」になります。当然、白は取られないようにつないでいきます。

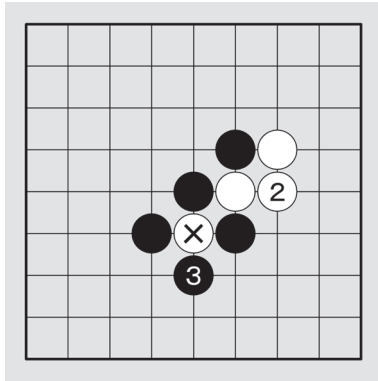
次の白番でつないだ手が、

3 図の②となります。②と周りの白石が連絡して強くなり、右上に孤立している白石も線が2本出ているので、すぐには取れません。結局、せっかく取れそうだった白に逃げられてしまいました。

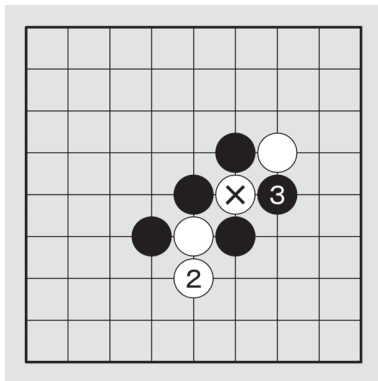
4図



5図



6図



それでは**4図**の**①**に打つとどうなるでしょう。**△**の2カ所を同時にアタリにすることができました。これが両アタリです。
白が**5図**の**②**で上のアタリをつないで守ろうとしてくれば、**③**でもう一つのアタリだった白石を取るることができます。

あるいは、白が**6図**の**②**で下のアタリを逃げたとしても、今度は**③**でもう一方の白石を見事に取ることができました。
このように、両アタリはどちらかの石を逃げられても、逃げることはできなかったもう一方の石を取ることができている技なのです。

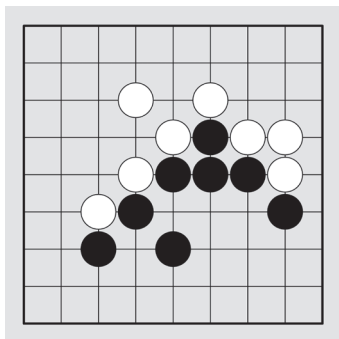
両アタリの手順

① 相手の2カ所の石を同時にアタリにする (自分)

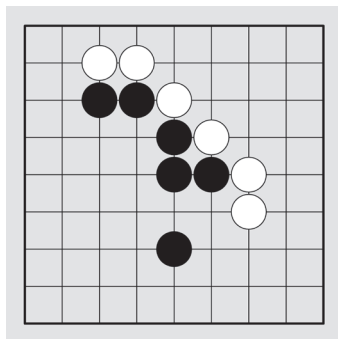
② 相手がアタリの石のどちらかを逃げる (相手)

③ 相手が逃げられなかったもう一方の石を取る (自分)

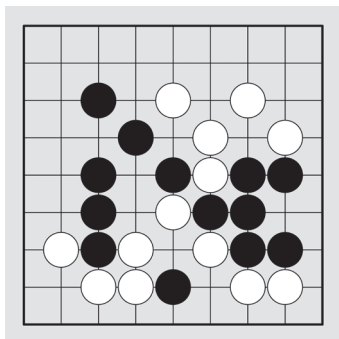
第 76 問



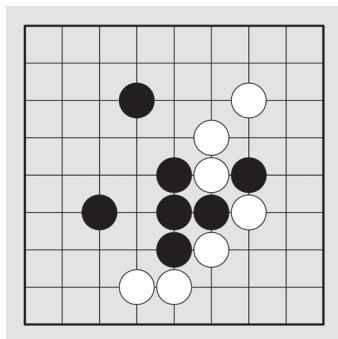
第 73 問



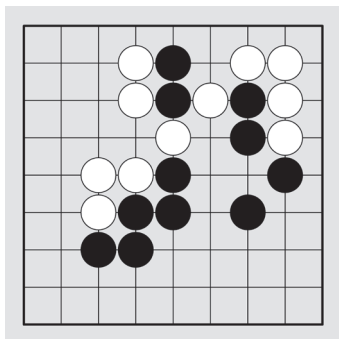
第 77 問



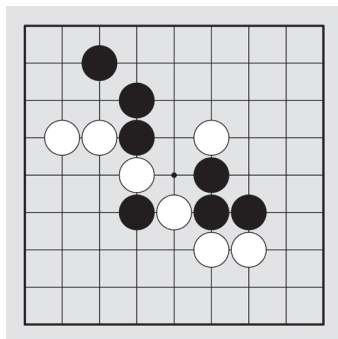
第 74 問



第 78 問



第 75 問

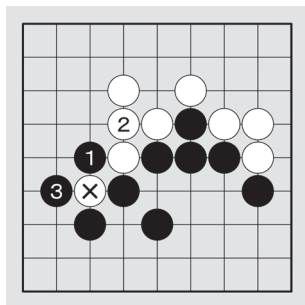


黒番です。3手先まで置いて
両アタリで白を取ってください

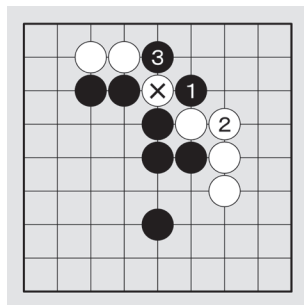
黒を1手目とする3手読みです。
①②③まで書いてください。
白の最善の受けをききとて攻め半じゅう

解答は二通りあります。①は共通ですが、解答図の②と③が入れ替わった解答も正解です

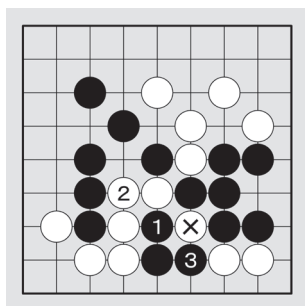
第76問



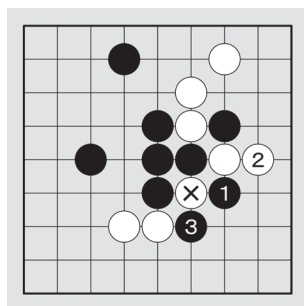
第73問



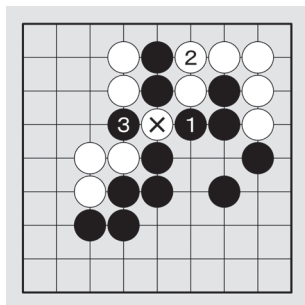
第77問



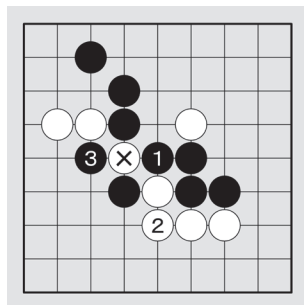
第74問



第78問

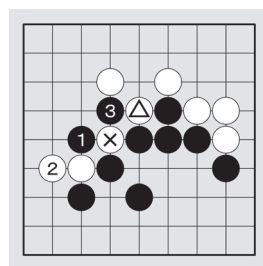


第75問

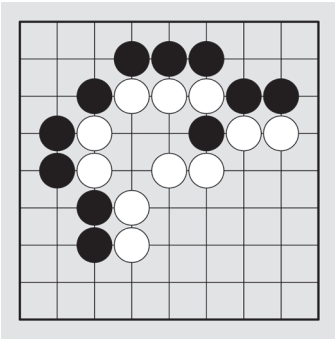


第76問 参考

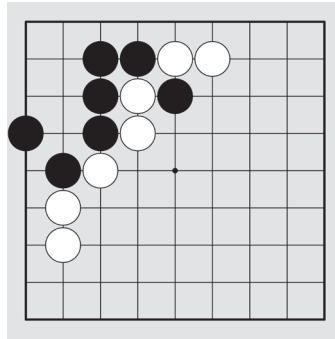
①の正解に対して、白は②に逃げる可能性もあります。そうすれば、③で③を取れるのでこの図でも正解です。ただ、白の対応としては△まで危険になる参考図よりも、被害が1子で済む正解図のほうが最善手ということです。



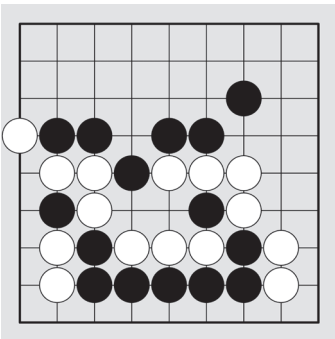
第 82 問



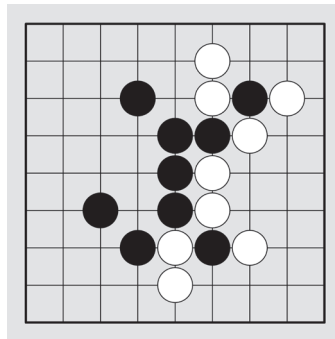
第 79 問



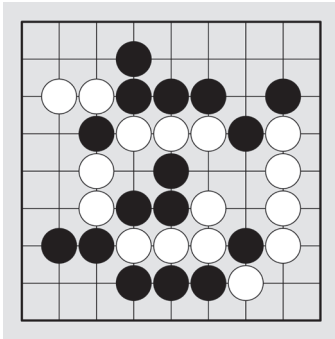
第 83 問



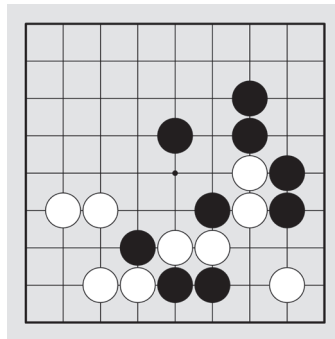
第 80 問



第 84 問



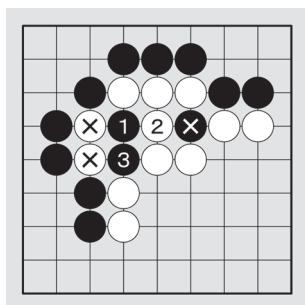
第 81 問



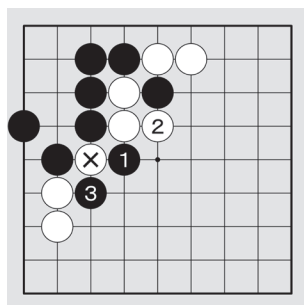
黒番です。3手先まで置いて
両アタリで白を取ってください

解答は二通りあります。①は共通ですが、解答図の②と③が入れ替わった解答も正解です

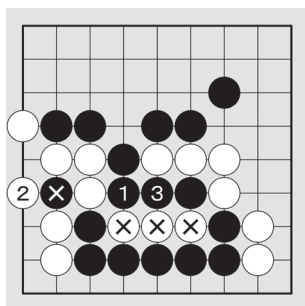
第 82 問



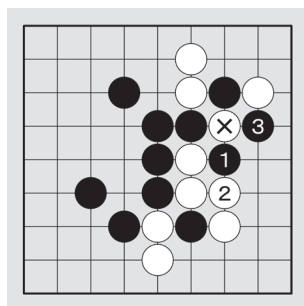
第 79 問



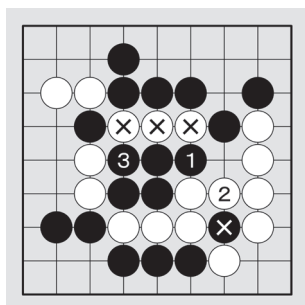
第 83 問



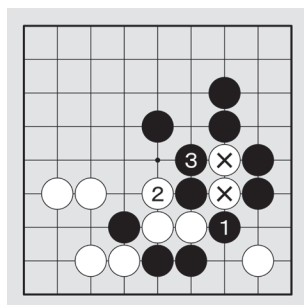
第 80 問



第 84 問

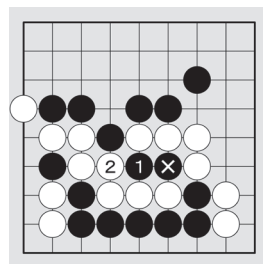


第 81 問



第 83 問 参考

①で白を狙うと、②でつながって逃げられると同時に、①とⓧが取られてしまいました。黒2子が盤上からなくなってしまえば、白を取ることができません。置く場所が少し違うだけで、盤面はこんなに変わってしまうのです。

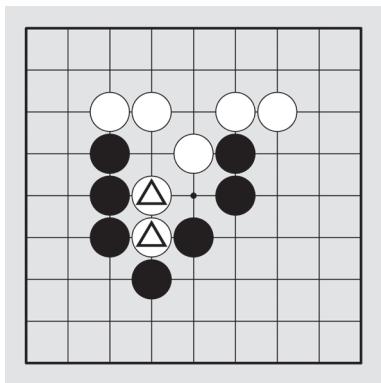


「オイオトシ」で攻める

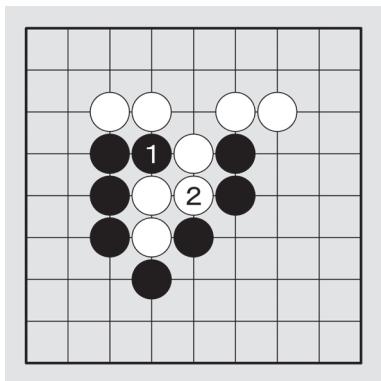
相手の石をたくさん取る痛快な技の一つに、「オイオトシ」という技があります。

この技は**相手がアタリの石を周りの仲間とつなげて逃げた時に、再びアタリとなっている石を狙い、まとめて一気に取ります。**

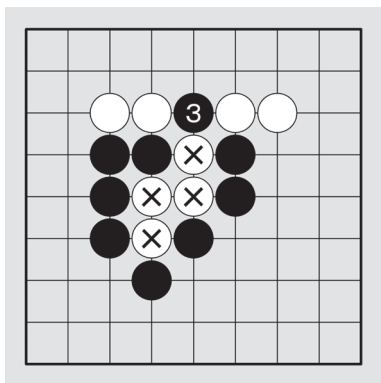
1 図



2 図



3 図



…→ ○×4

42 ページでお話ししましたが、石

の強さはおもに「石数」「連絡」「手数」によって決まります。石がつながって石数が増えたとしても、「手数」が少ない（アタリなど）のでは強くなつたとはいえないのです。

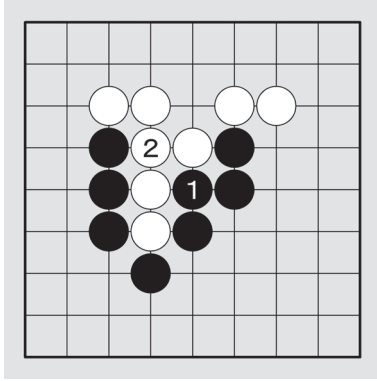
さて**1 図**の△を取るために、黒は

どこに置くのがよいでしょうか。

正解は**2 図**の①です。①からアタリで白2子を追いかけると、白は②と仲間につなげて逃げました。そこで逃げた白4子を、**3 図**の③でまとめて取ってしまうのです。

この技がオイオトシです。

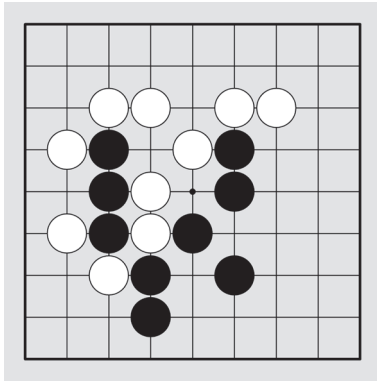
4図



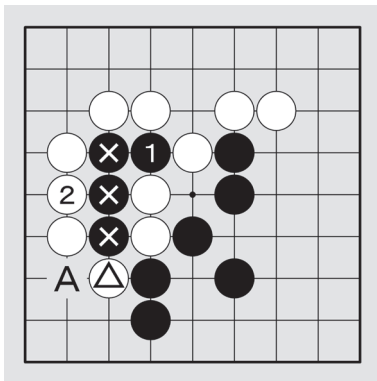
4図のように逆から①にアタリをする手は失敗です。②とつながれて、逃げられてしまいました。アタリをかける方向も重要なのです。技を使う時も「石の手数」と「相手を切れる場所を増やすこと」が大切です。

両アタリと同じで、自分の石のアタリ（手数）にも注意をしましょう。

5図



6図



……→ ●×4

少し石数が増えた5図の場合は、どこに黒石を置けば白石が取れるでしょうか。オイオトシだと思って6図の①から追いかけると、②で黒4子が逆に取られてしまいます。

この場合は①ではなく、Aで△を狙うなど、別の白石へ目を向けるべきでした。

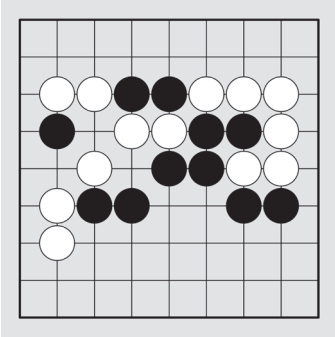
オイオトシの手順

① 相手の手数を詰めてアタリにする（自分） ←

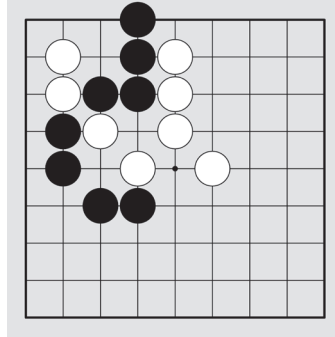
② アタリの石をつなげて逃げて、再びアタリになる（相手） ←

③ 逃げた相手の石をまとめて取る（自分） ←

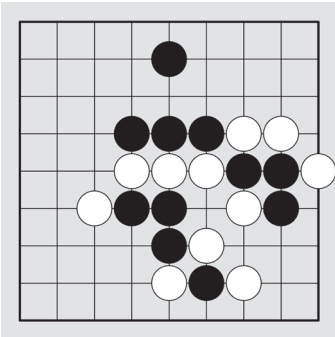
第 88 問



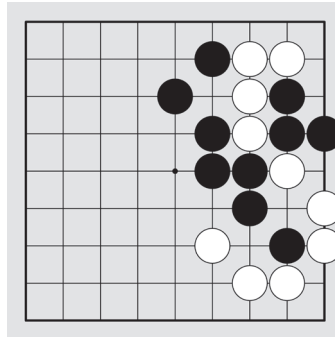
第 85 問



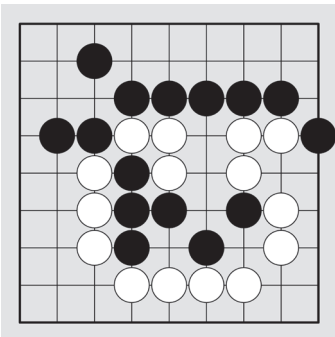
第 89 問



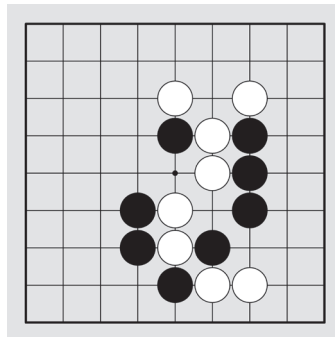
第 86 問



第 90 問

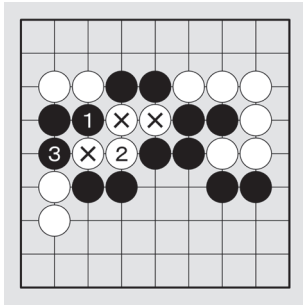


第 87 問

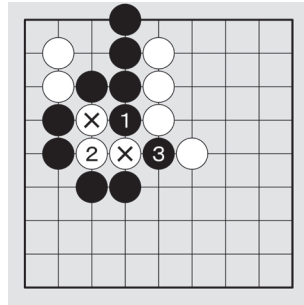


黒番です。3手先まで置いて
オイオトシで白を取ってください

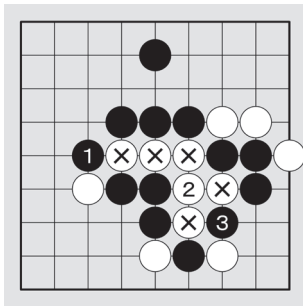
第 88 問



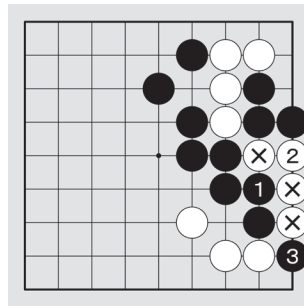
第 85 問



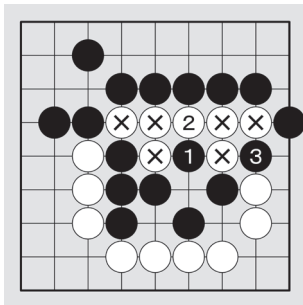
第 89 問



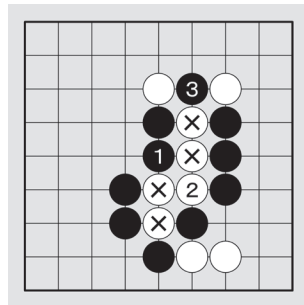
第 86 問



第 90 問

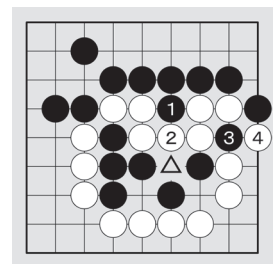


第 87 問

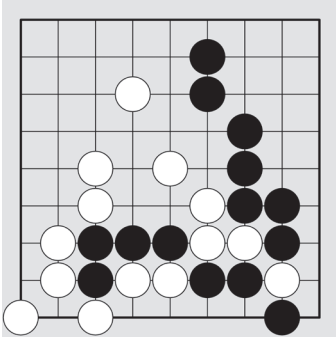


第 90 問 参考

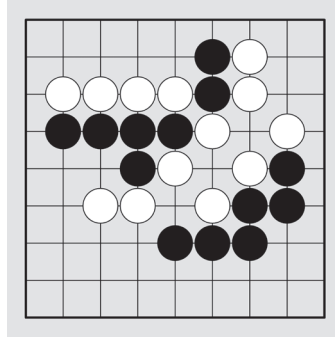
①からアタリをするのでは、オイオトシになりません。②につながれた時に△が空いているので、③に切っていこうとしても白を取ることができず、④で先に③を取られてしまいました。手数をしっかりと数えることが大切です。



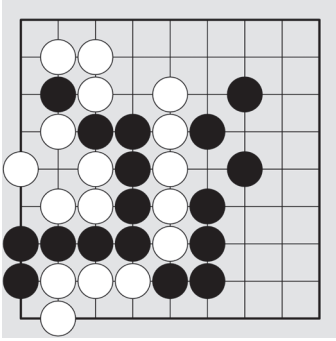
第94問



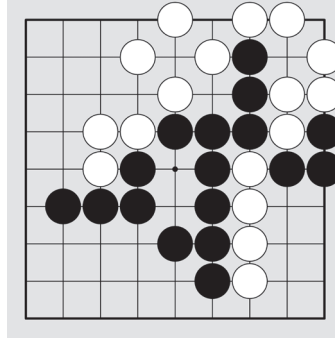
第91問



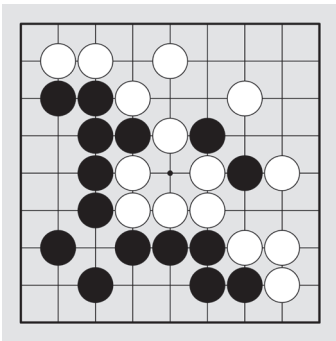
第95問



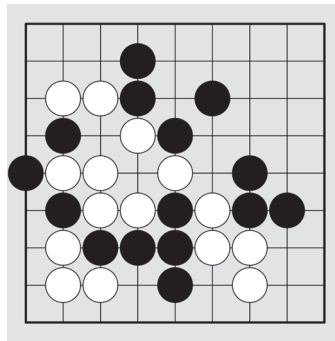
第92問



第96問

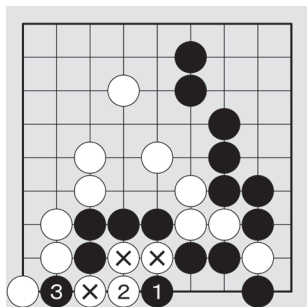


第93問

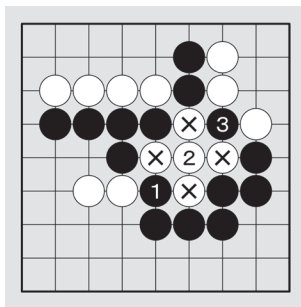


黒番です。3手先まで置いて
オイオトシで白を取ってください

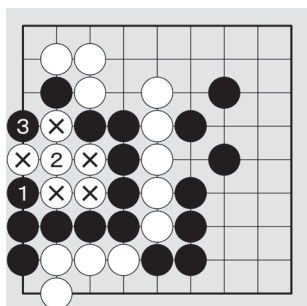
第94問



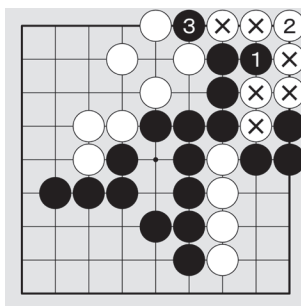
第91問



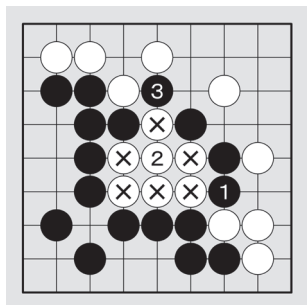
第95問



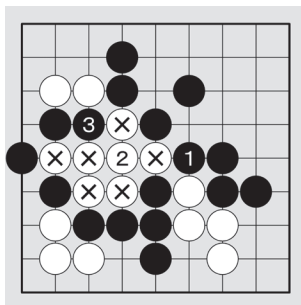
第92問



第96問

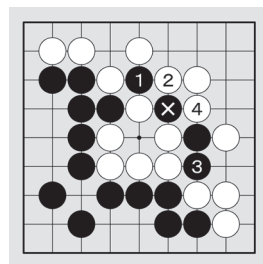


第93問



第96問 参考

①で両アタリができるようにもみえますが、白のアタリに飛び込んでしまい、②で取られてしまいました。そこから③に切ってオイオトシにしようとしても、④で×を取られてしまってアタリが続きません。



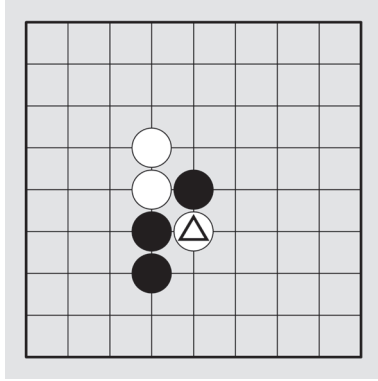
「シチヨウ」で攻める

相手の石を取る時には、アタリにして取る形を目指すのが基本です。

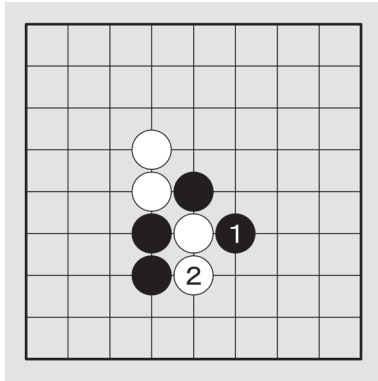
「アタリ↓逃げる↓アタリ…」を繰り返して、最終的にたくさん石を取る技を「シチヨウ」といいます。

1 図をご覧ください。△は手数が残る2手です。そこで黒は、2 図の

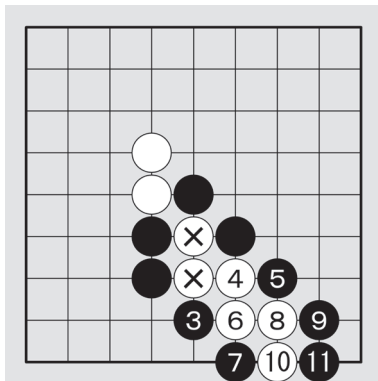
1 図



2 図



3 図



…→ ○×6

①からアタリにします。白が②と逃げて、手数はまた2手です。

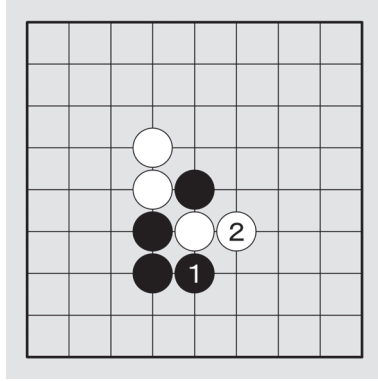
3 図の③から追いかけてアタリを繰り返しながら、盤の端（または仲間が待ち構えている所）に相手を追い詰めていきます。最後の⑩は盤の一番端のために逃げてても手数が1手だ

けとなり、最終的にまとめて取る事ができました。

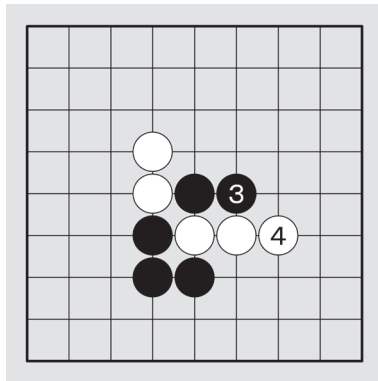
シチヨウを使いこなすコツ
 ・相手の手数が増えないほう（端や味方が待ち構えている所）へ追う
 ・追いかけている味方の石が取られないように注意する

シチョウウを使う時に大切なことは、**取る側が石を置いた時は常に相手の手数が増える状態になっている**ことです。アタリを受けた相手が、石をつなげて逃げた時が残り2手であれば、再び自分が石を置いてアタリにして追い詰めることができます。

4図



5図



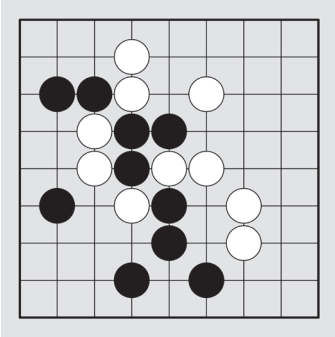
たとえば、**4図の①**から追いかけるようになるでしょうか。
②に逃げられた時に、白石の手数が3手に増えてしまいました。続けて**5図の③**と追いかけても、**④**に逃げられると白の手数はさらに1手増えて4手になってしまいます。
 これでは、追いかければ追いかけて

るほど白の手数が増えてしまい、取ることは難しくなります。
 先を読みながら、相手の手数が増えないほうへと上手に追い込んで、シチョウウを成功させてください。

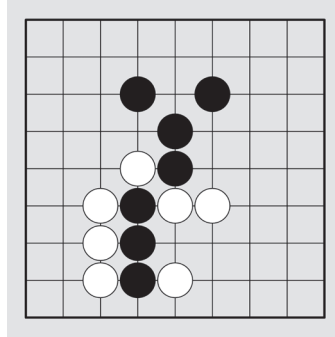
シチョウウの手順

- ① 相手の石をアタリにする(自分)
- ② 相手がアタリの石をつないで逃げる(相手)
- ③ 追いかけて、再び相手の石をアタリにする(自分)
- ④ 「アタリ」と「逃げ」を繰り返しながら追い詰めて、相手の石をまとめて取る(自分)

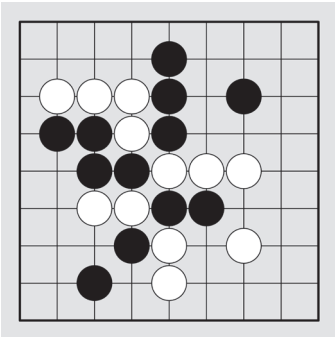
第 100 問



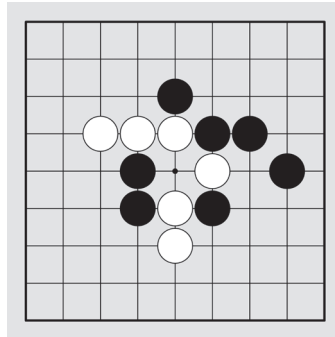
第 97 問



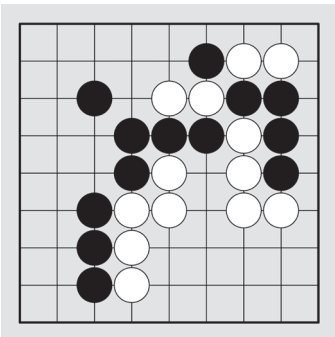
第 101 問



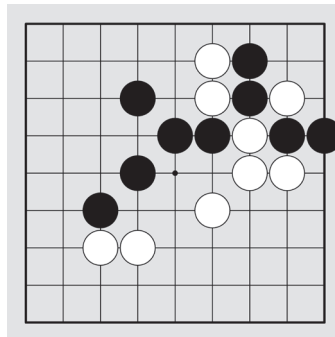
第 98 問



第 102 問

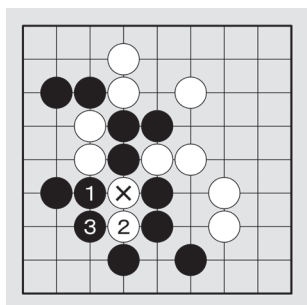


第 99 問

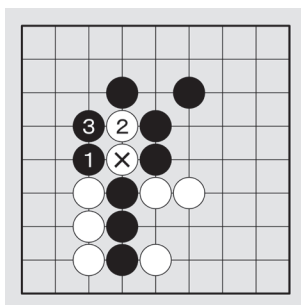


黒番です。3手先まで置いて
シチヨウで白を取ってください

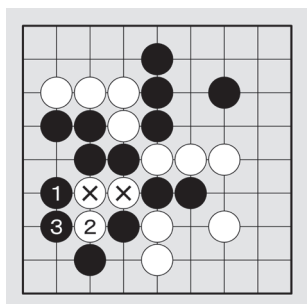
第 100 問



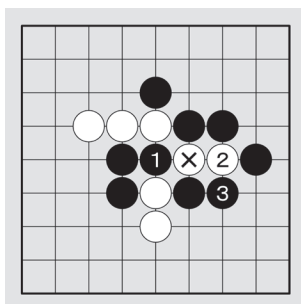
第 97 問



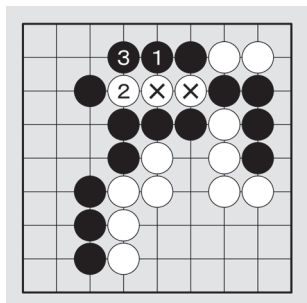
第 101 問



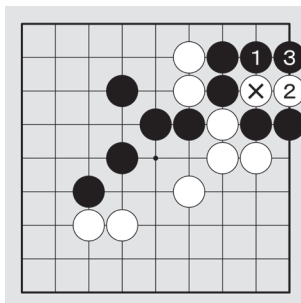
第 98 問



第 102 問

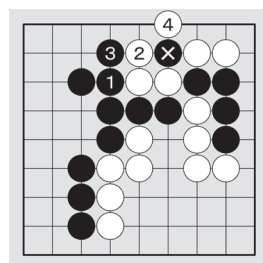


第 99 問

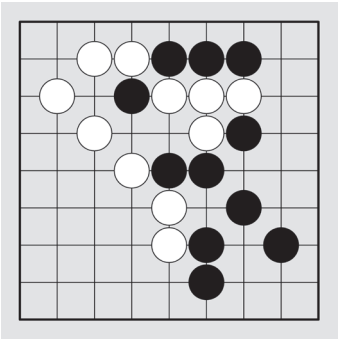


第 102 問 参考

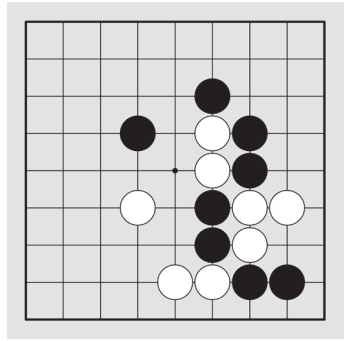
①から白を盤の端に追いかけて狙う手は、②が逃げるのと同時に弱い黒石の手数を縮められています。③で追いかけても④で✕が取られて、もう白をつかまえることができません。自分の弱い石にも注意して攻めましょう。



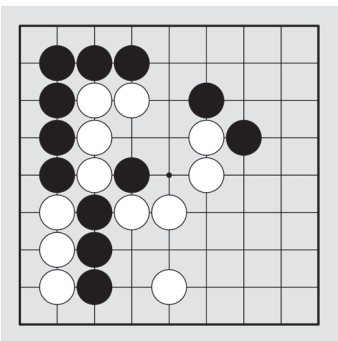
第 106 問



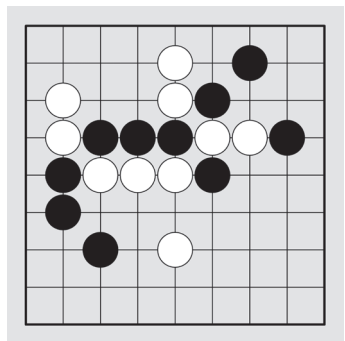
第 103 問



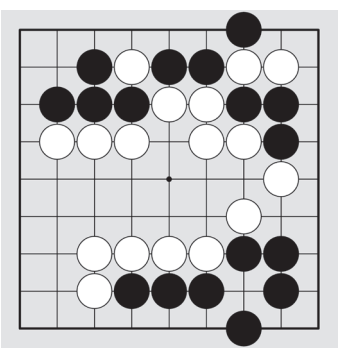
第 107 問



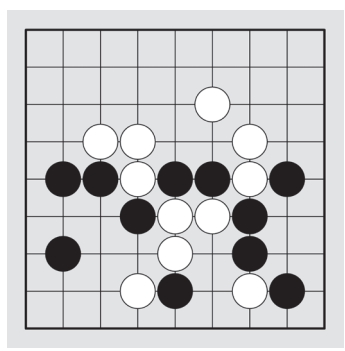
第 104 問



第 108 問

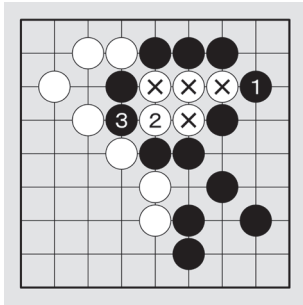


第 105 問

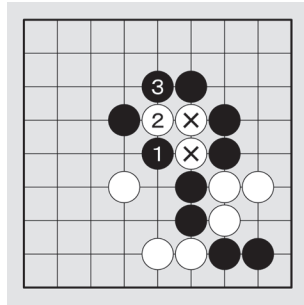


黒番です。3手先まで置いて
シチヨウで白を取ってください

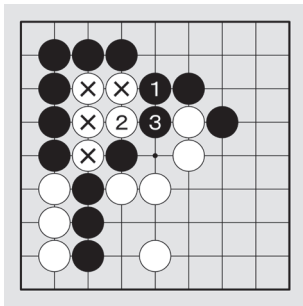
第 106 問



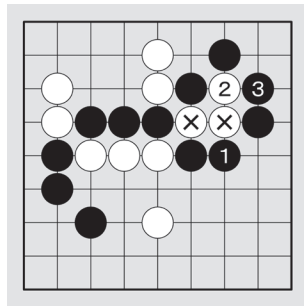
第 103 問



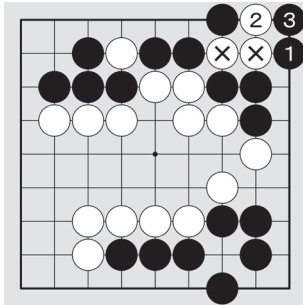
第 107 問



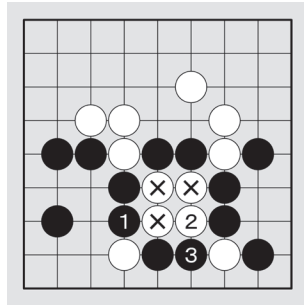
第 104 問



第 108 問

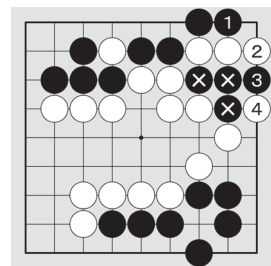


第 105 問



第 108 問 参考

①から追いかけると、②に逃げられた時に白の手数が2手になっています。続けて③と取ろうとしても、④に置かれて黒4子が先に取りられてしまいました。逃げた時に手数が少なくなるほうへと相手を追い込みましょう。



▼解説

1図は第107問の失敗図です。

相手の石を攻める時には、自分の石の状態を知ることが大切です。1

図の①は自分の状態を考えずに一方的に攻めたせいで、②と逃げられてしまいます。

引き続き2図の③で白を切つてシ

チョウにしようと思つても、④で黒

3子を取られて3図になつてはどうしようありません。正解図ではどう

かつていた△の3子も、こうなつては「助からない石」になつてしまひそうです。

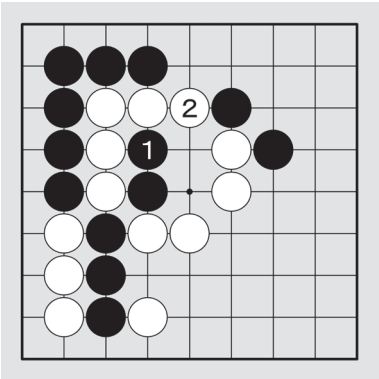
2図の④の番では、Aに出していく

手も可能です。白が「3・×はアタ

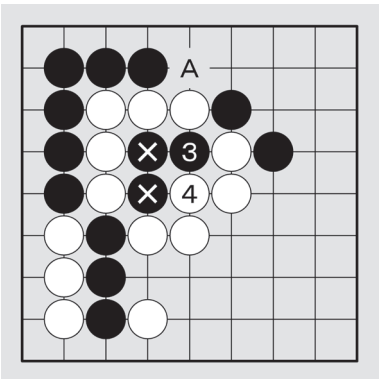
リでこれ以上抵抗できない」と考えれば、3・×は置いておいて、先に

取られそうな自分の石につないで線を増やす(A)のです。こうすることで、「相手の石をいつかは取れる状態にしておく」わけです。

1図

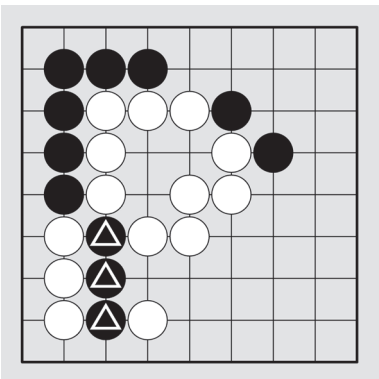


2図



...→ ●×3

3図



囲碁を愛した偉人

囲碁の長い歴史のなかで、囲碁を楽しんだ偉人や有名人は枚挙にいとまがありません。

平安時代では「紫式部」が有名です。源氏物語のなかでも囲碁の場面は数多く出てくるため、宮中で囲碁を楽しんでいたのではないかと推察されています。

戦国時代では、囲碁が戦略ゲームとして重宝されたのか、数多くの武将が真剣に囲碁を活用していたようです。特に「織田信長」「豊臣秀吉」「徳川家康」は、自分で楽しむだけでなく、囲碁の強い名人を重用した記録が残っています。

名人のなかでも「本因坊算砂」ほんいんぼうさんさは上記三代の天下人に比べ、江戸時代の囲碁界隆盛の礎を築きました。

明治時代に入っても、政界・財界・軍人など名のある人々の多くが囲碁を楽しんでいました。「西郷隆

盛」は、西南戦争の末期の追い詰められた時でも悠然と囲碁を打っていたそうです。「伊藤博文」は公務の息抜きに楽しみ、「大久保利通」は囲碁を利用して立身出世をしたそうです。「乃木希典」と「東郷平八郎」は、イギリスに向かう船中にて盤を挟んで黙々と烏鷺うろを戦わせ、長旅を有意義に過ごしました。

また、韓国の「金玉均」もかなりの腕前だったそうで、日本亡命中には「本因坊秀栄」と親交が深かったようです。

大正時代に入り、関東大震災で窮地に追い込まれた囲碁界が「日本棋院」として大同団結できたのも、政財界を含めた囲碁愛好家のおかげです。

昭和から平成と時代は刻々と変わっていきますが、囲碁を愛する人々の心が変わりはありません。

囲碁入門ネクスト①〈9路盤〉

第4章

監修：棋士 水間 俊文

© NIHONKIIN All Rights Reserved.

〒102-0076 東京都千代田区五番町7-2

公益財団法人 日本棋院

☎ (03) 3288-8723

<https://www.nihonkiin.or.jp/>

本書掲載の文章・図版の無断複製・転載・印刷を禁じます。